

# 我が国の衛星放送の現況

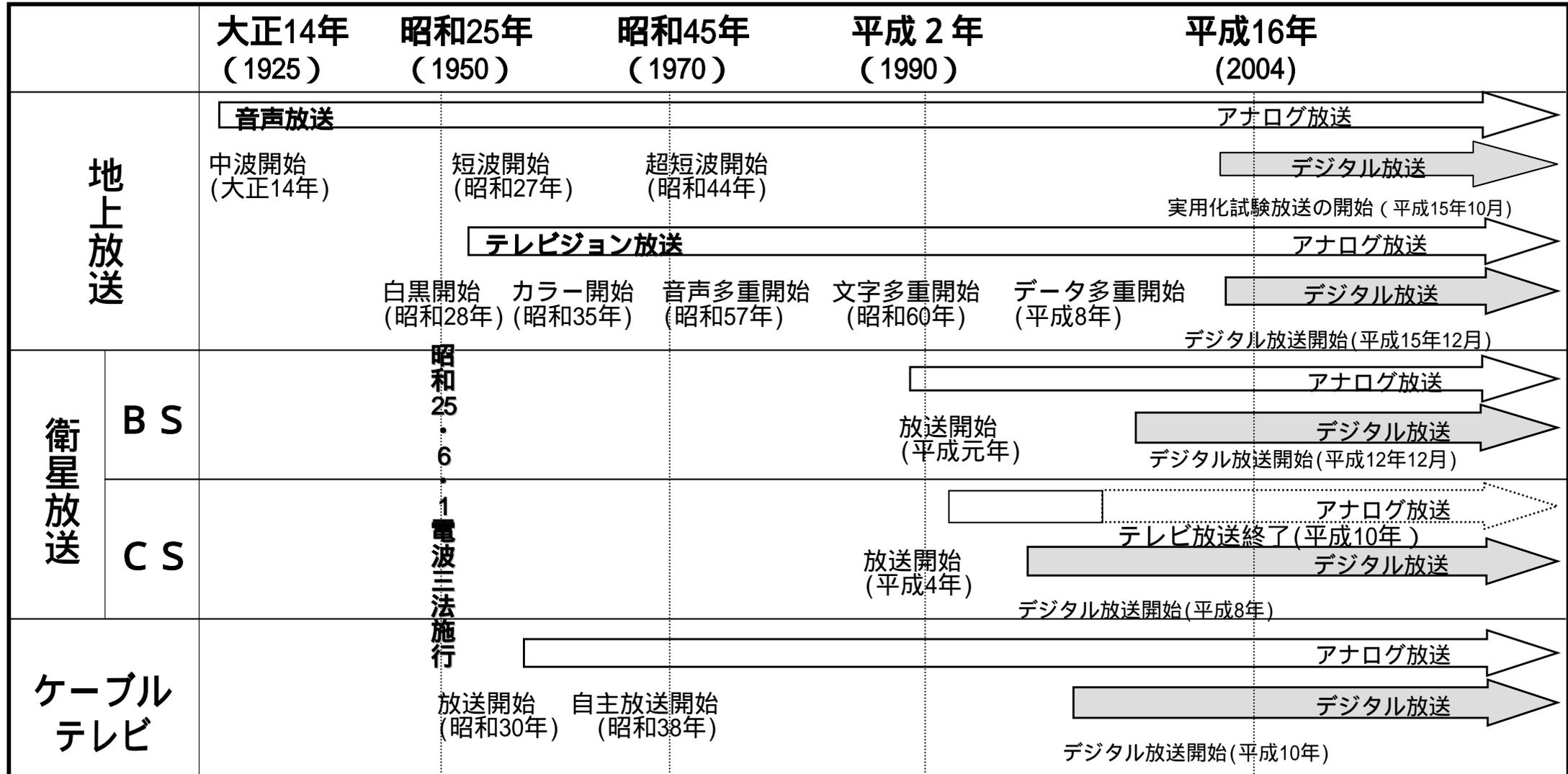
平成16年4月

総務省 情報通信政策局  
衛星放送課

# 我が国の放送メディアの進展

我が国では、ブロードバンド化の急速な進展、地上放送・BS放送・CS放送・ケーブルテレビの普及発達による多メディア・多チャンネル化が展開し、視聴者が情報を得る手段の選択肢が増加。

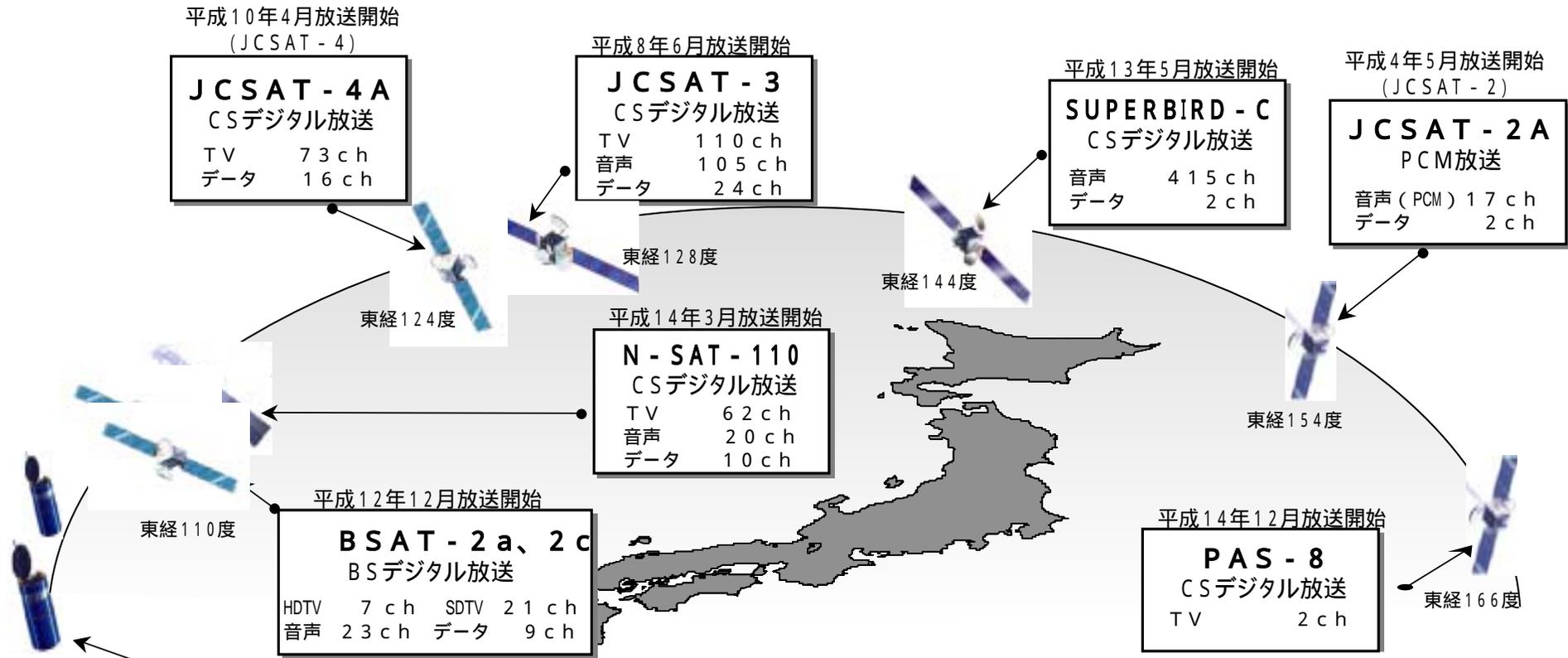
衛星放送は、全国放送を基本とする準基幹的放送メディアあるいは多チャンネルの専門メディアとして期待されてきた。



# 我が国の衛星放送に用いられている衛星

我が国の衛星放送に用いられている衛星は、8体が運用中。

(平成16年3月末現在)



- JCSAT : ジェイサット(株)
- SUPERBIRD : 宇宙通信(株)
- N - SAT - 110 : ジェイサット(株)・宇宙通信(株)
- BSAT - 1a,1b : NHK・(株)WOWOW・(株)放送衛星システム
- BSAT - 2a,2c : (株)放送衛星システム
- PAS-8 : パンナムサット・インターナショナル・システムズ・インク

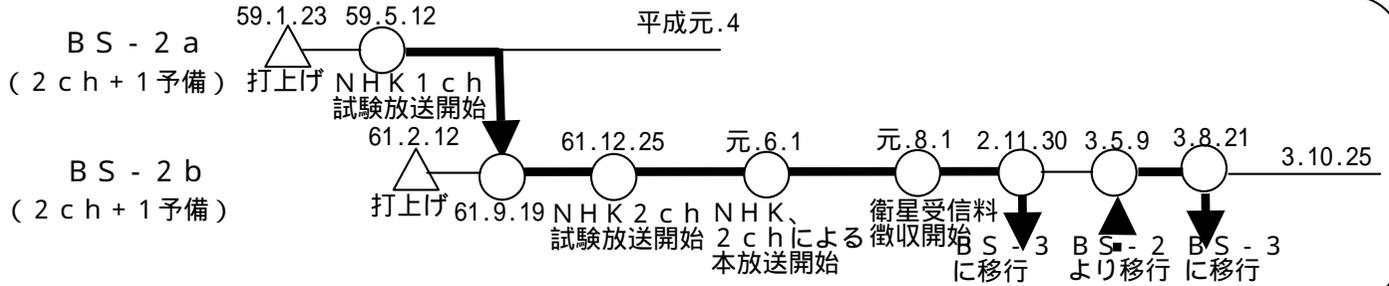
# 我が国のBS放送の経緯

BS放送は、昭和53年から衛星放送実験に始まり、平成12年からデジタル放送が開始。

第1世代: 実験用中型放送衛星(BS)による  
衛星放送実験(昭和53年~同57年)

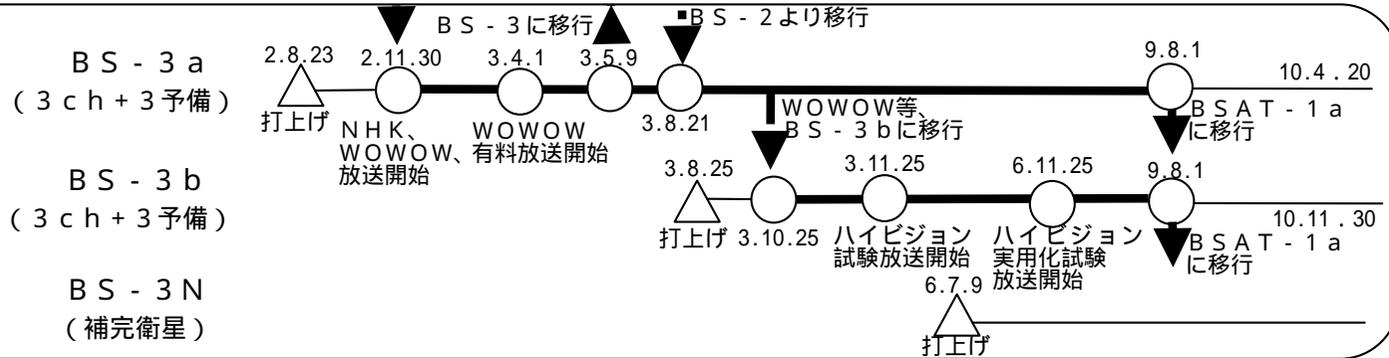


第2世代: 放送衛星2号(BS-2)による  
放送(昭和59年~平成3年)

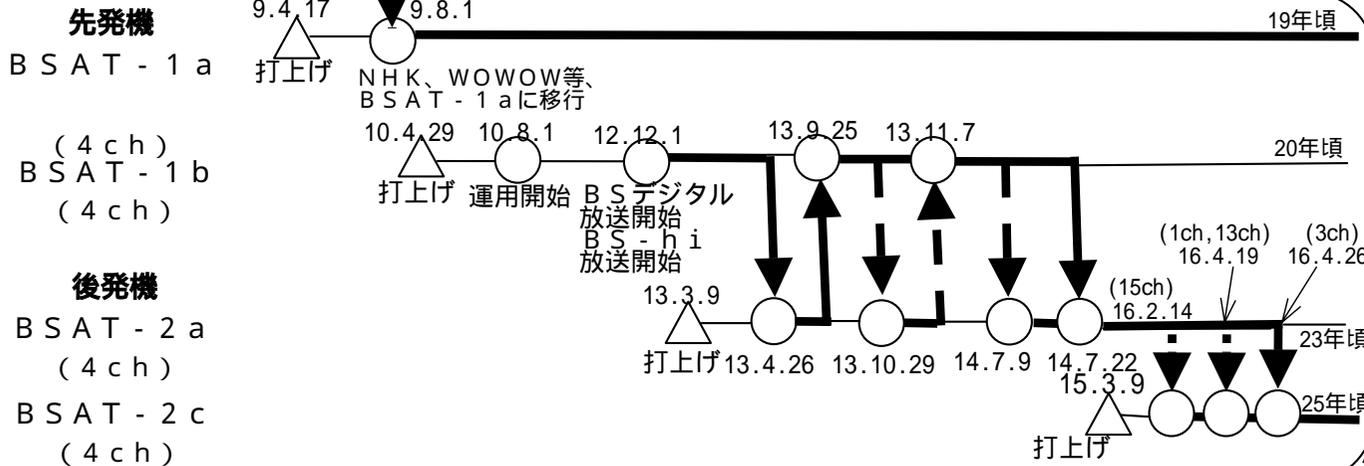


第3世代: 放送衛星3号(BS-3)による  
放送(平成2年~同9年)

(注) 現在、BS-3Nは、BSAT-1aの予備衛星となっている。



第4世代: 放送衛星3号後継機による  
放送(平成9年~)



# BS放送用チャンネルの使用(テレビジョン放送)の変遷

我が国で衛星放送のために使用できる周波数帯域としては、昭和52年の世界無線通信主管庁会議にて11.72～12.00GHz帯(第1・3・5・7・9・11・13・15の計8チャンネル)、平成12年の世界無線通信会議にて、12.00～12.20GHz帯(第17・19・21・23の計4チャンネル)が割り当てられた。  
 現在は、このうち第1・3・5・7・9・11・13・15チャンネルの計8チャンネルをBS放送に使用している。

年月日	チャンネル	1	3	5	7	9	11	13	15
昭和59年 5月12日									
昭和61年 12月25日							NHK (試験放送)		NHK (試験放送)
平成 元年 6月 1日							NHK (試験放送)		NHK (総合放送)
平成 2年 11月30日			WOWOW				NHK (難視聴解消を 目的とする放送)		
平成 3年 10月25日									
平成 3年 11月25日						(社)ハイビジョン推進協会 (高精細度テレビジョン試験放送)			
平成 6年 11月25日						NHK 民放7社 (高精細度 テレビジョン 実用化試験放送)			
平成12年 12月 1日				WOWOW	NHK (総合放送)				NHK
		ビエス朝日 ビエス・アイ	WOWOW ジャパン ビエス・エス・			NHK (デジタル方式の 放送へ円滑に移行 するための放送)		ビエス日本 ビエスフジ	スター・チャンネル BS1 BS2 HDTV
平成19年									
平成23年まで									



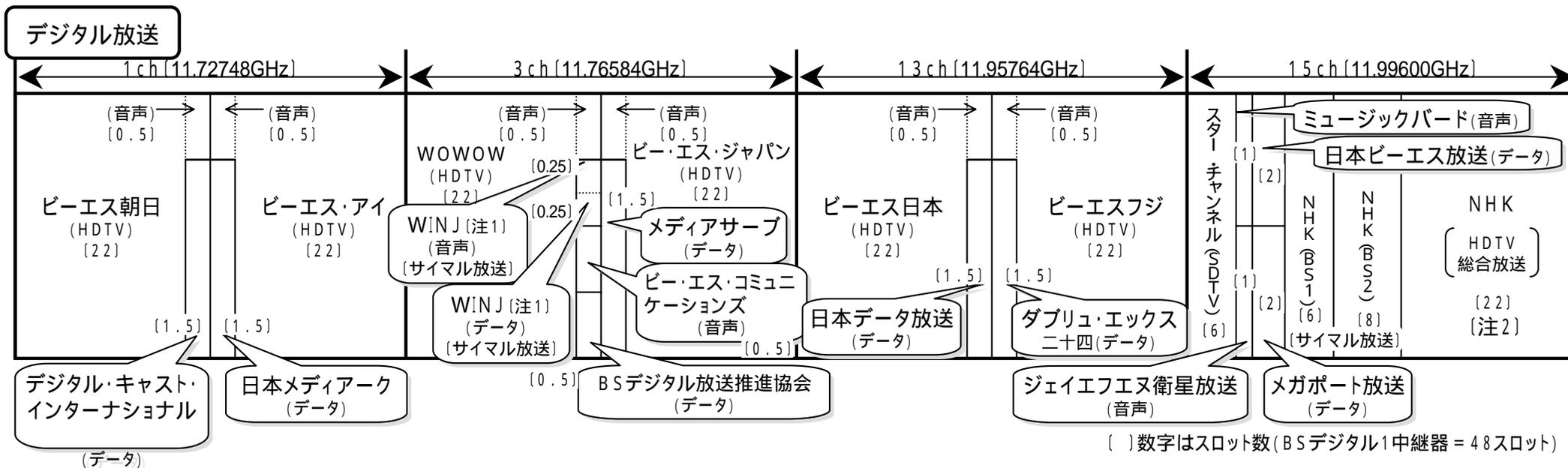
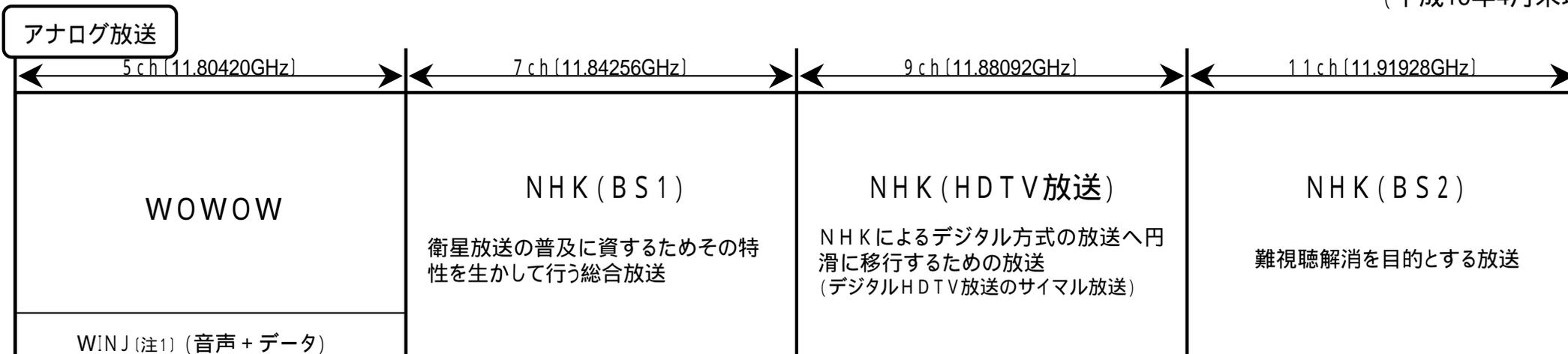
アナログ放送



デジタル放送

# BS放送のチャンネル一覧

(平成16年4月末現在)

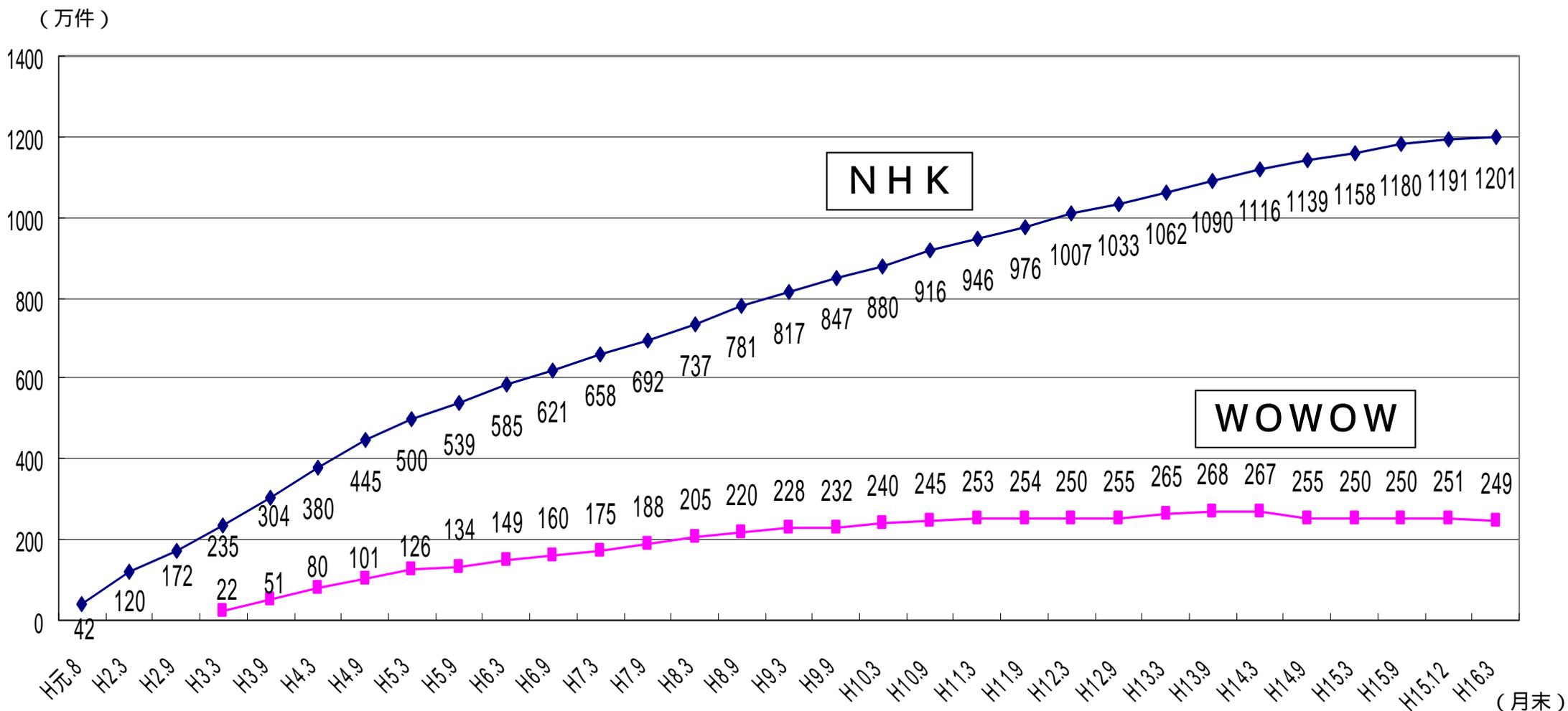


[注1] 平成9年8月にBSAT - 1aによる放送を開始した衛星デジタル音楽放送株式会社 (SDAB) は、平成15年3月に株式会社ワイヤービーに合併された。株式会社ワイヤービーのサービスは、平成15年10月にWorld Independent Networks Japan株式会社 (WINJ) に営業譲渡されている。

[注2] デジタル技術の特性及び高画質性を生かしたデジタル技術の普及に資する総合放送 (災害や重大事件・事故の発生に対応するため又はデジタル技術の新しい利用方法の開発・普及に資するために一時的に行われるSDTV放送を妨げない。)

# BS放送の普及状況(契約件数)

BS放送は、平成元年の本放送開始以来、順調に契約数を伸ばし普及。  
平成16年3月末現在の契約数は、NHK1,201万件、WOWOW249万件の計1,450万件。

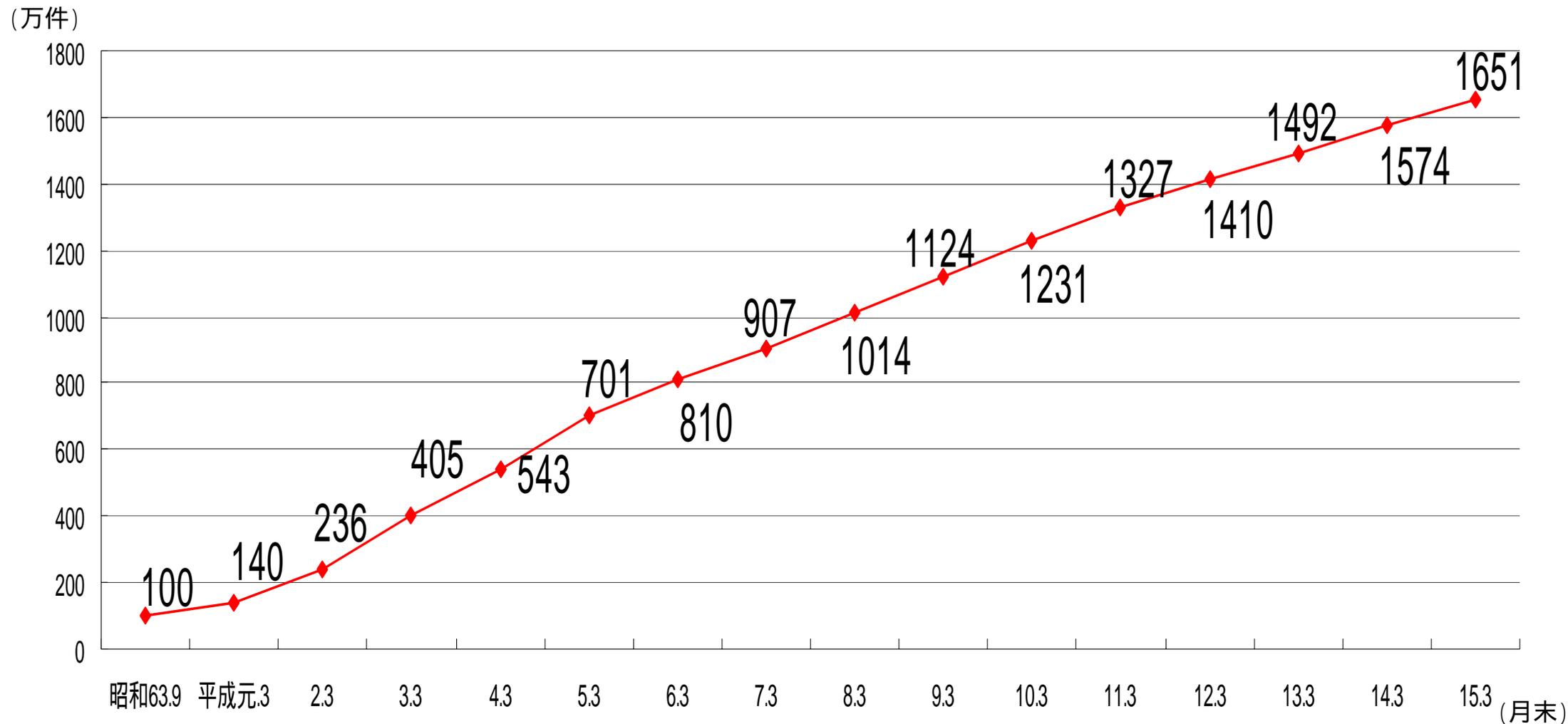


平成12年12月以降は、デジタル放送の契約件数を含む。

# BS放送受信普及数

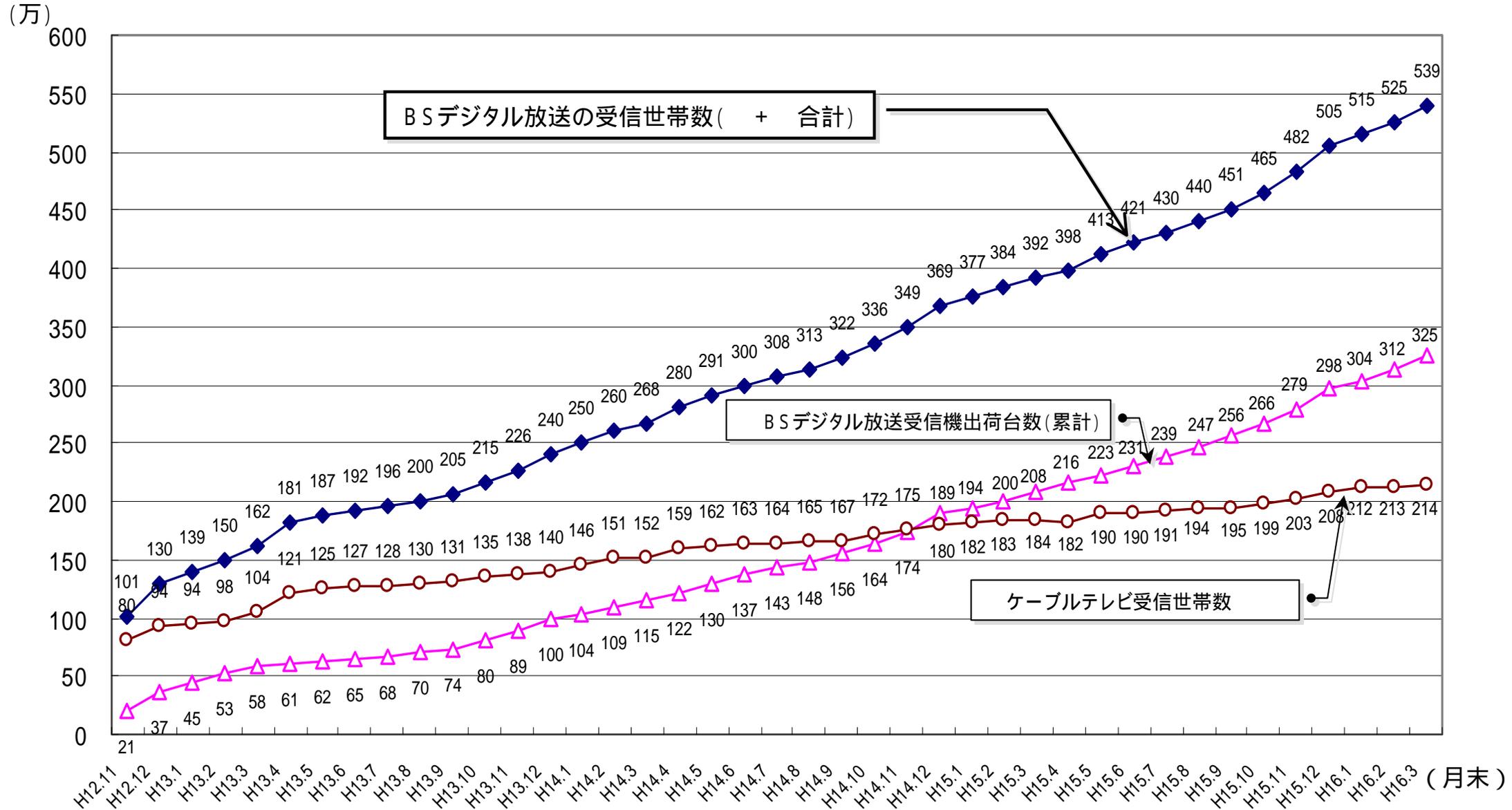
衛星放送受信普及数は、平成7年度に1,000万を突破、同13年度には1,500万も突破。

平成15年3月末現在の受信普及数は、約1,651万件(BSデジタル放送を含む。)



# BSデジタル放送の受信世帯数

平成16年3月末現在で、BSデジタル放送受信機出荷台数(累計)は約325万台、ケーブルテレビ受信世帯数は約214万世帯まで普及。



(出典：日本放送協会資料により総務省作成) 8

# BSデジタルテレビジョン放送専業5社の収支状況

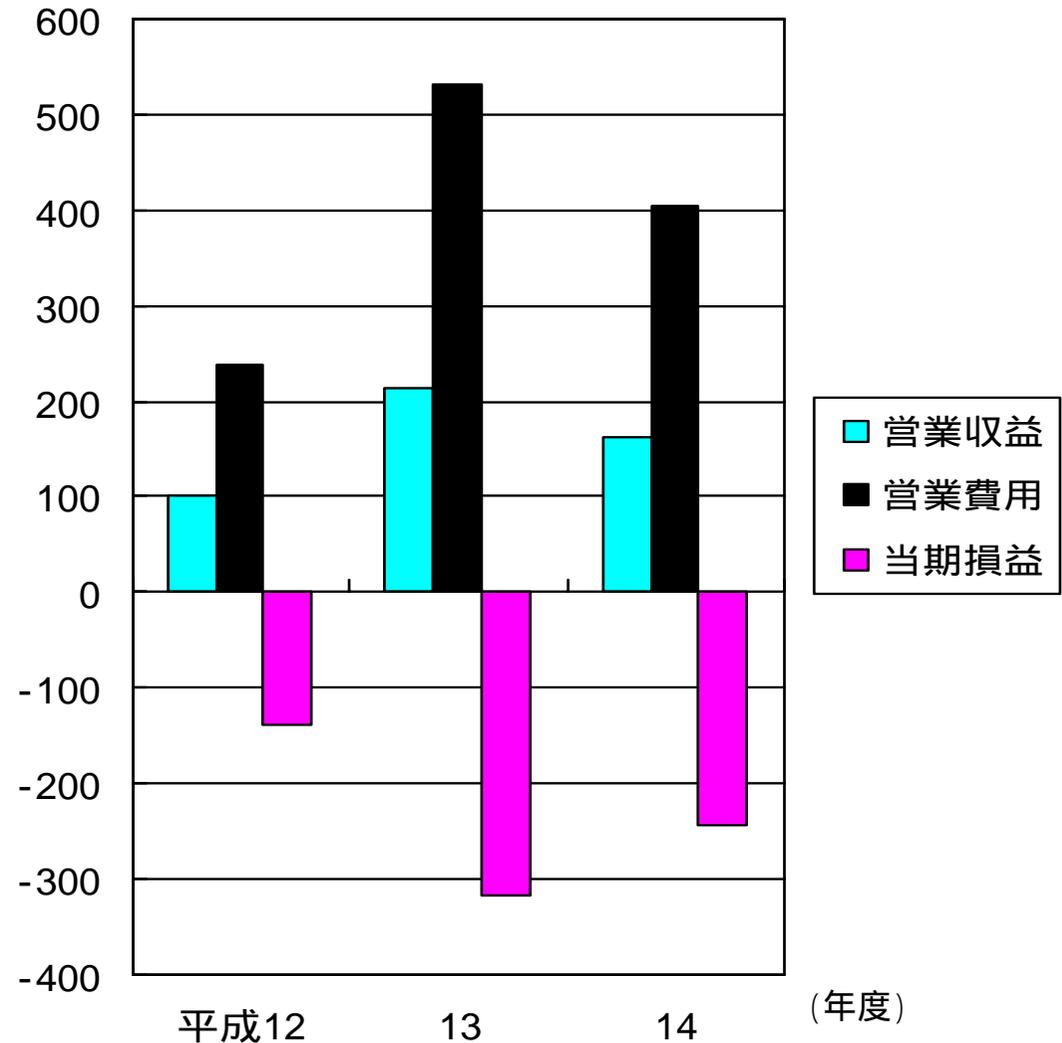
BSデジタルテレビジョン放送専業事業者5社については、累積赤字は718億8千万円にのぼり、全社が赤字経営。

単位：億円 (億円)

	平成12年度 1	平成13年度	平成14年度
営業収益	101.7	214.5	161.5
営業費用	237.3	531.3	401.2
収支比率 <sup>2</sup>	233.2%	247.7%	248.4%
当期損益	139.5	316.9	242.9
累積損益	159.9	471.3	718.8

(各社の公表資料を基に算出)

- 1：BSデジタル放送は、平成12年12月1日に開始。  
2：収支比率は営業費用 / 営業収益の比率



# NHKの衛星放送に係る収入と経費の推移

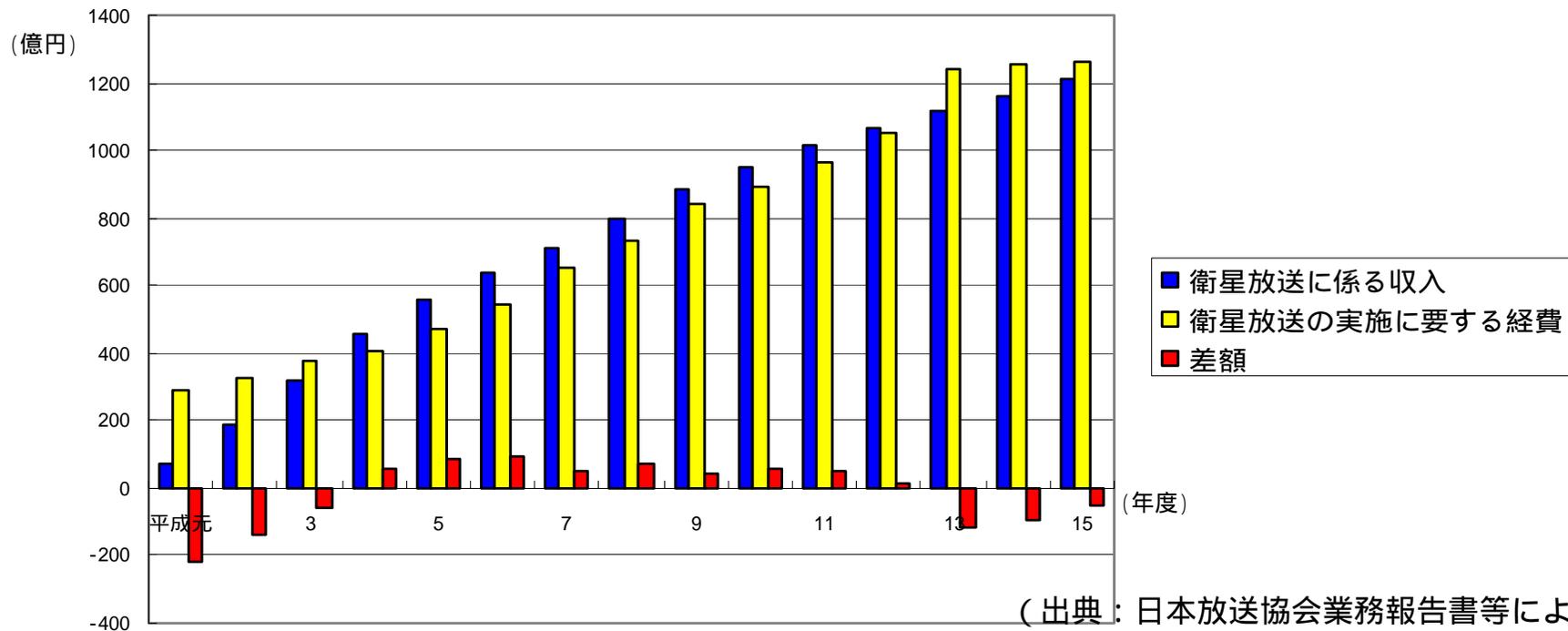
NHKの衛星放送に係る収入及び衛星放送の実施に要する経費については、一貫して増加。  
収入と経費の差額は、BSデジタル放送の開始(平成12年12月)以後マイナスとなったが、徐々に回復。

年度 区分	(億円)														
	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
衛星放送に係る収入	71	189	320	460	558	638	707	800	884	953	1,013	1,066	1,119	1,160	1,208
衛星放送の実施に要する経費	292	327	380	405	471	543	656	730	843	895	964	1,051	1,239	1,253	1,262
差額	221	138	60	54	87	94	51	69	41	57	49	15	119	92	54

(注1) 一般勘定の事業収支のうち衛星放送に係る収支を計上。

(注2) 事業支出には、平成12年12月以降、ハイビジョン放送の実施に要する経費を算入。

(注3) 平成15年度は、予算ベースの値。



# CS放送の経緯

平成4年から日本通信衛星(株)がJCSAT - 2、宇宙通信(株)(SCC)がSUPERBIRD - Bによりアナログ放送サービスを開始。

(株)日本サテライトシステムズ(日本通信衛星(株)が改称。)が平成8年からJCSAT - 3により、平成10年4月からJCSAT - 4によりデジタル放送サービスを開始、SCCが平成9年11月からSUPERBIRD - Cによりデジタル放送サービスを開始。

平成14年3月からジェイサット(株)(株)日本サテライトシステムズが改称。)及びSCCがN - SAT - 110により東経110度CSデジタル放送サービスを開始。

## ジェイサット(株) (JSAT)

## 宇宙通信(株) (SCC)

	経緯	備考
JCSAT-2 (東経154°)		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信及び放送に利用</li> <li>設計寿命：約11年</li> </ul>
JCSAT-3 (東経128°)		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信及び放送に利用</li> <li>設計寿命：約12年</li> </ul>
JCSAT-4 (東経124°)		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信及び放送に利用</li> <li>設計寿命：約14.5年</li> </ul>

	経緯	備考
SUPERBIRD - B (東経162°)		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信及び放送に利用</li> <li>設計寿命：約10年</li> </ul>
SUPERBIRD - C (東経144°)		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信及び放送に利用</li> <li>設計寿命：約13年</li> </ul>

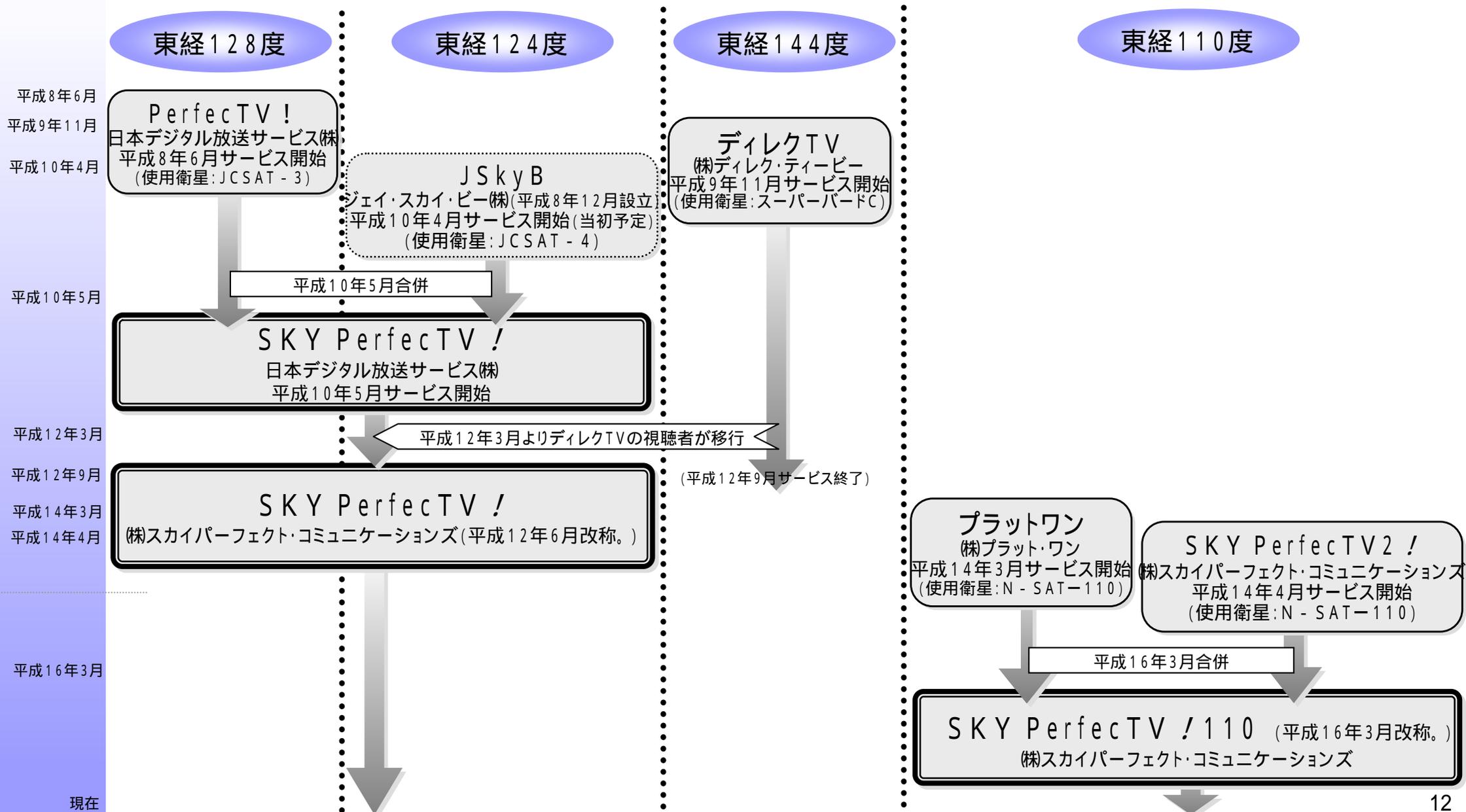
## ジェイサット(株)及び宇宙通信(株)

JSATでは「JCSAT-110」、SCCでは「SUPERBIRD - D機」という。

	経緯	備考
N-SAT-110 (東経110°)		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信及び放送に利用</li> <li>設計寿命：約15年</li> </ul>

# CSデジタル放送プラットフォームサービスの経緯

CSデジタル放送が開始された平成8年、プラットフォームサービス「PerfectTV！」がサービス開始。  
プラットフォーム事業は、現在までに(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズに全て統合。

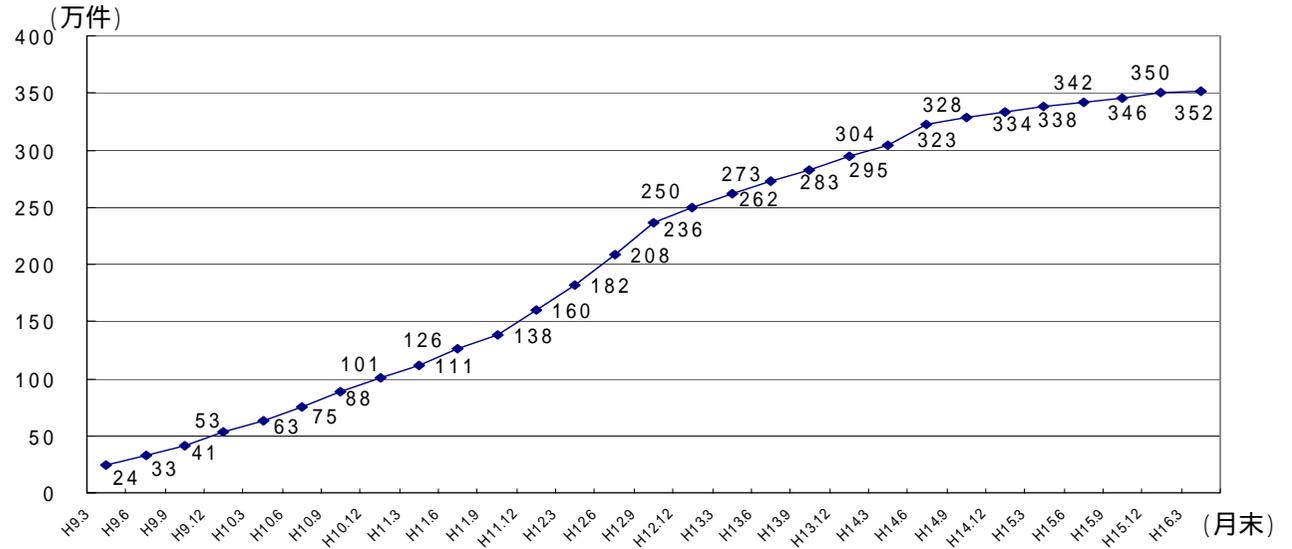


# CSデジタル放送の普及状況

東経124度・128度CSデジタル放送における加入件数の推移は、平成8年のサービス開始以来、純増。  
東経110度CSデジタル放送においても、加入件数は全体として増加の傾向で推移。

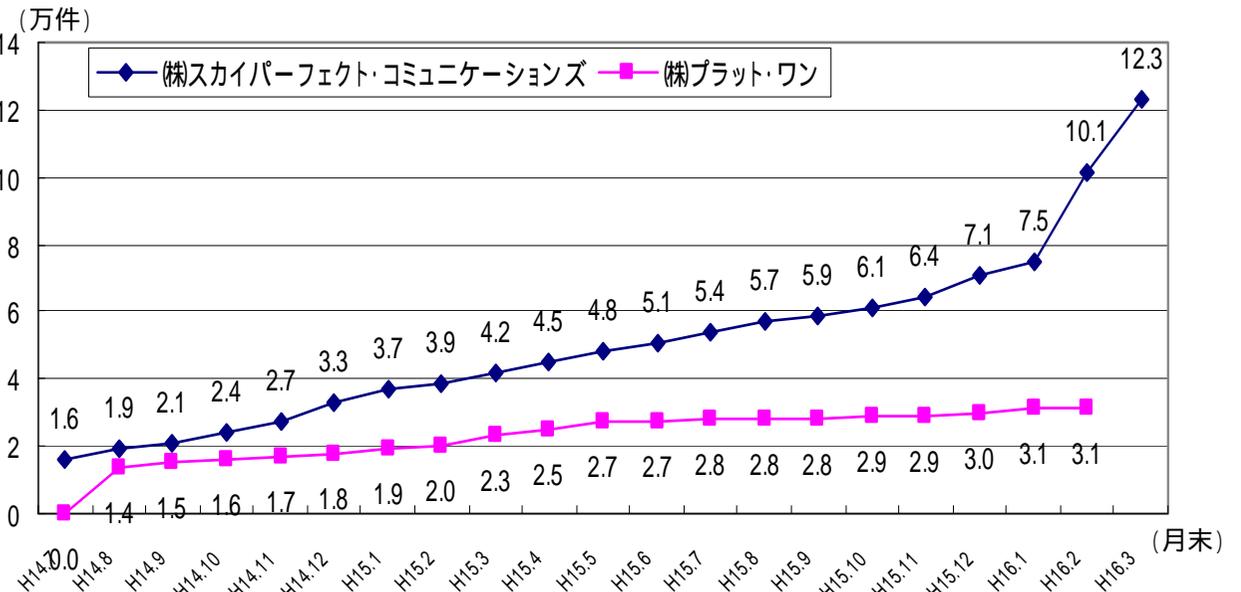
## 東経124度・128度 (株)スカパーフェクト・コミュニケーションズに係る加入件数

- 1 「加入件数」とは、個人契約者数(有料視聴契約(個人本登録)を結び、視聴料の支払いが発生している加入者数)に、有料視聴契約締結前の無料視聴期間中の数(仮登録、「SKYPerfectTV！」のみ)、法人契約者数(代理店展示用を含む)、技術開発用登録数などを加えた総登録者数をいう。
- 2 「SKYPerfectTV！」に係る加入件数の発表方法が、平成11年8月末分から変更された。  
毎月の加入件数を、従来の新規登録者数から純増登録者数として発表。  
開局以来36ヶ月分の累計解約者数を差し引いた累計登録者数を発表。
- 3 平成12年3月から「ディレクTV」が「SKYPerfectTV！」に加入者の移行を開始し、当移行加入者数が純増登録者数に含まれる。



## 東経110度 (株)スカパーフェクト・コミュニケーションズ及び (株)プラット・ワンに係る加入件数

- 1 「加入件数」とは、個人契約者数(有料視聴契約(個人本登録)を結び、視聴料の支払いが発生している加入者数)に、有料視聴契約締結前の無料視聴期間中の数(仮登録、「SKYPerfectTV！」のみ)、法人契約者数(代理店展示用を含む)、技術開発用登録数などを加えた総登録者数をいう。
- 2 平成16年2月末以降は、「SKYPerfectTV！110」(平成16年3月に「SKYPerfectTV2！」が改称。)によるプラットフォーム業務を受託した、スター・チャンネルBS加入者が含まれる。
- 3 平成16年3月末以降は、平成16年3月1日付けで(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズと合併した(株)プラット・ワンの「プラットワン」からの移行加入者が含まれる。



# 東経110度CS放送のチャンネル一覧

(平成16年3月末現在)

宇宙通信(株)中継器 [標準TV 23ch、超短波放送 20ch、データ 8ch]					
ND 2 (12.291GHz) 【SCC】	ND 8 (12.411GHz) 【SCC】	ND 10 (12.451GHz) 【SCC】	ND 16 (12.571GHz) 【SCC】	ND 18 (12.611GHz) 【SCC】	ND 24 (12.731GHz) 【SCC】
(株)スペースステリア 標準TV 1番組 (12スロット) 超短波放送 20番組 (12スロット)	イーピー放送(株) 標準TV 2番組 (24スロット) データ放送 1番組 (12スロット)	(株)CS - WOWOW 標準TV 6番組 (48スロット)	阪急電鉄(株) (株)シーエスナウ 標準TV 1番組 (12スロット)	(株)インタラクティブィ 標準TV 6番組 (60スロット) データ放送 1番組 (12スロット)	(株)シーエス日本 標準TV 6番組 or [HDTV 2番組] (45スロット) データ放送 1番組 (3スロット)
	(株)日本ビークス放送 (株)日本メディアーク (12スロット) データ放送 1番組 (12スロット) データ放送 1番組	(株)メガポート放送 (12スロット) データ放送 3番組			

ジェイサット(株)中継器 [標準TV 38ch、データ 2ch]						
ND 4 (12.331GHz) 【JSAT】	ND 6 (12.371GHz) 【JSAT】	ND 12 (12.491GHz) 【JSAT】	ND 14 (12.531GHz) 【JSAT】	ND 20 (12.651GHz) 【JSAT】	ND 22 (12.691GHz) 【JSAT】	
マルチチャンネルエンターテイメント(株) 標準TV 5番組 (36スロット)	シーエス映画放送(株) 標準TV 5番組 (24スロット)	(株)ハリウッドムービーズ 標準TV 4番組 (24スロット)	(株)シーエス・ワンテン 標準TV 6番組 (37.5スロット) データ放送 1番組 (10.5スロット)	(株)アクティブ・スポーツ・ブロードキャスティング 標準TV 7番組 (48スロット)	(株)サテライト・サービス 標準TV 5番組 (48スロット)	(株)シー・ティ・ピー・エス 標準TV 5番組 (42スロット) データ放送 1番組 (6スロット)
	(株)シーエス九州 標準TV 1番組 (12スロット)					

# CSデジタル放送事業者の収支状況

CSデジタル放送事業者(東経110度を除く。)については、営業収益は約1,780億円まで拡大し、営業収益が約52億円の圧縮。また、96社中47社が黒字計上。

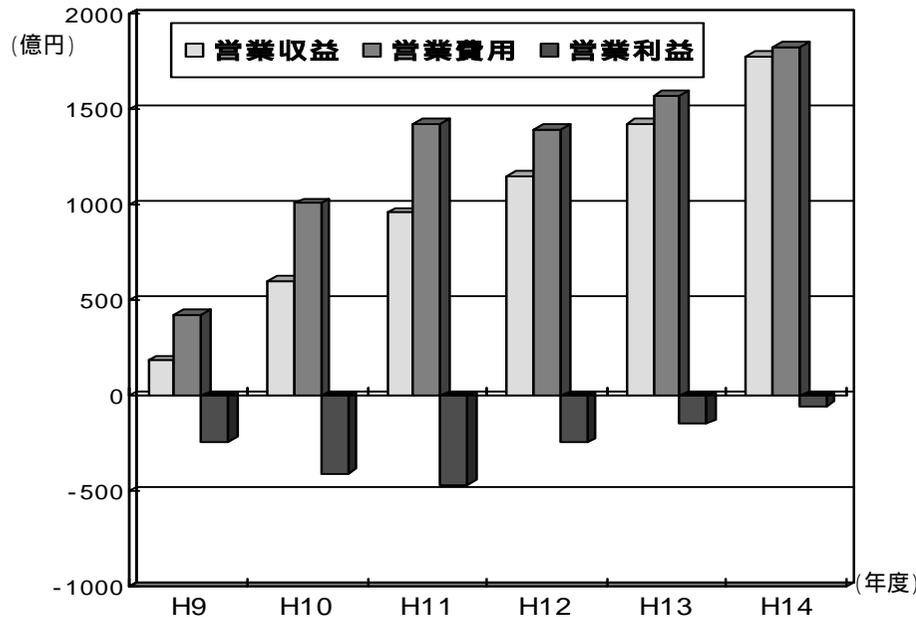
東経110度CSデジタル放送事業者については、事業は立上りの時期にあり、18社中4社が黒字計上。

## 東経110度を除くCSデジタル放送

(億円)

	平成9年度 (66社)	平成10年度 (96社)	平成11年度 (93社)	平成12年度 (93社)	平成13年度 (100社)	平成14年度 (96社)
営業収益	186.8	603.9	960.5	1,154.2	1,424.8	1,779.9
営業費用	429.4	1,009.4	1,429.9	1,399.8	1,571.7	1,831.9
収支比率	229.8%	167.1%	148.9%	121.3%	110.3%	102.9%
営業利益	242.6	405.5	469.4	245.6	146.9	52.0
当期利益 黒字社数	10社	15社	15社	32社	40社	47社

- 1 収支比率は営業費用 / 営業収益の比率
- 2 テレビジョン放送も行う音声放送事業者は、テレビジョン放送に包括して報告(按分不可能なため)
- 3 データ放送3社のうち2社はテレビジョン放送に包括して報告(按分不可能なため)



## 東経110度CSデジタル放送

(億円)

	平成14年度 (18社)
営業収益	109.9
営業費用	175.5
収支比率	159.7%
当期利益	65.3
当期利益 黒字社数	4社

収支比率は営業費用 / 営業収益の比率  
東経110度CSデジタル放送は、平成14年3月から放送開始

